

平成24年度

事業報告書

(第6期事業年度)



自 平成24年4月 1日

至 平成25年3月31日

北海道公立大学法人 札幌医科大学

目 次

1	大学の概要	
(1)	大学名	1
(2)	所在地	1
(3)	役員の状況	1
(4)	学部等の構成	1
①	学部等	1
②	大学院	1
③	助産学専攻科	2
④	附属病院	2
⑤	その他の附属施設等	2
(5)	学生数及び教員数	2
(6)	沿革	2
(7)	建学の精神	3
(8)	理念	3
(9)	行動規範	3
(10)	中期目標（平成19年度～平成24年度）（基本目標）	3
2	業務の実績	
(1)	総括	4
(2)	計画の主な実績	4
第1	大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置	4
第2	業務運営の改善に関する目標を達成するための措置	6
第3	財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	6
第4	自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置	6
第5	その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置	6
第6	決算、収支計画及び資金計画	7
第7	短期借入金の状況	7
第8	重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	7
第9	剰余金の使途	7
第10	その他	8
	別紙	9

北海道公立大学法人札幌医科大学事業報告書

1 大学の概要

(1) 大学名

北海道公立大学法人札幌医科大学

(2) 所在地

北海道札幌市中央区南1条西17丁目291番地85

(3) 役員状況（平成25年4月1日現在）

役 職	氏 名
理 事 長（学長）	島 本 和 明
副理事長	平 山 和 則
理 事	黒 木 由 夫
理 事	乾 公 美
理 事	平 田 公 一
理 事	白 崎 賢 治
監 事	小 寺 正 史
監 事	山 本 剛 司

(4) 学部等の構成

① 学部等

医学部 医学科
保健医療学部 看護学科
理学療法学科
作業療法学科
医療人育成センター

② 大学院

医学研究科 医科学専攻（修士課程）
地域医療人間総合医学専攻（博士課程）
分子・器官制御医学専攻（博士課程）
情報伝達制御医学専攻（博士課程）
保健医療学研究科 看護学専攻（博士課程前期・後期）
理学療法学・作業療法学専攻（博士課程前期・後期）

③ 助産学専攻科

④ 附属病院（平成25年4月1日現在）

診療科数	26 診療科
病床数	938 床
室数	273 室

⑤ その他の附属施設等

附属総合情報センター、附属産学・地域連携センター、 医学部附属フロンティア医学研究所、医学部附属教育研究機器センター、 医学部附属動物実験施設部
--

(5) 学生数及び教員数（平成25年4月1日現在）

学部学生	1,022 人
大学院生	298 人
研究生	119 人
訪問研究員	115 人
留学生	8 人
教員数	384 人
職員数	1,156 人

(6) 沿革

<p>本学は、北海道総合開発の一環として、昭和25年に旧道立女子医学専門学校を基礎に、戦後の新制医科大学第一号の医学部医学科の単科大学として開学した。</p> <p>その後、平成5年には札幌医科大学衛生短期大学部（昭和58年開学）を発展的に改組することにより、保健医療学部として開設し、本道で唯一の公立医科系総合大学として発展してきた。</p> <p>この間、医師をはじめとする多くの医療人を育成するとともに、先進医学・保健医療学の研究や高度先進医療の提供、さらには地域への医師派遣等を通じて、北海道の医療・保健・福祉の向上に大きく貢献してきた。</p> <p>平成19年4月には、新たな理念及び行動規範を掲げ、理事長のリーダーシップの下、最高レベルの医科大学を目指して、北海道公立大学法人札幌医科大学として新たに出発した。</p> <p>平成20年10月には、新たな教育組織として、教養教育と専門教育（医学及び保健医療学）の有機的連携の下、高度な医療技術を有し、かつ、高い医療倫理と教養を備えた人間性豊かな医療人を育成することを目的に、医療人育成センターを開設した。</p> <p>平成22年には、開学60周年（創基65周年）を迎え、「記念講演会」（道民公開講座）等、様々な取組により、これまでの本学の歩みや今後の方針等について、広く情報発信を行った。</p> <p>平成23年4月には研究機能の強化を図るため、医学部附属がん研究所等の研究部門を再編し、医学部附属フロンティア医学研究所を設置した。</p> <p>また、平成24年4月には、創造性に富み人間性豊かな助産師の育成を行い、北海道の母子保健の発展と充実に貢献することを目的に助産学専攻科を開設した。</p>
--

(7) 建学の精神

- 一、進取の精神と自由闊達な気風
- 一、医学・医療の攻究と地域医療への貢献

(8) 理念

- 最高レベルの医科大学を目指します
- ・人間性豊かな医療人の育成に努めます
 - ・道民の皆様に対する医療サービスの向上に邁進します
 - ・国際的・先端的な研究を進めます

(9) 行動規範

1. 医学と保健医療学を通じて、北海道そして広く日本社会さらに世界に貢献します。
2. 最高の研究・教育・診療レベルを目指します。
3. 法令を遵守し、生命倫理・研究倫理・社会倫理を尊重します。
4. 地域と社会に対して必要な情報を公開します。
5. 人権・人格・個性を尊重し、差別・ハラスメントの無い環境を目指します。
6. 生命倫理・社会倫理を脅かす反社会的行為に対し毅然として対応します。
7. 地域・地球環境を守り、環境の保全・改善のために行動します。

(10) 中期目標（平成19年度～平成24年度）（基本目標）

1. 創造性に富み人間性豊かな医療人を育成し、本道の地域医療に貢献する。
2. 進取の精神の下、世界水準の研究を推進し、国際的な研究拠点の形成を目指す。
3. 高度先進医療の開発・提供を行い、本道の基幹病院としての役割を果たす。
4. 健康づくり・疾病予防の視点に立った総合的な地域医療支援ネットワークの形成に努める。
5. 最新の研究・医療に関する情報の地域社会への提供やより一層の産学官連携を進め、研究成果の社会還元を努める。
6. 国際交流を推進し、国際的医療・保健の発展に寄与する。

2 業務の実績

(1) 総括

本学は、公立大学法人として発足後、平成24年度で6年目を迎え、中期計画に基づき、順調に運営している中、第1期中期計画の最終年度として、中期計画の達成に向けた積極的な取組を進めた。

教育の分野における具体的な取組については、学籍・成績・出席管理等の機能を備えた学生サポートシステムを開発した。

さらに、顕在化している医師不足に対して、北海道立の医科大学として道内で医学・医療に従事する医師を養成するために、医学部において平成25年度入学者選抜試験から「北海道医療卒」を設置した。また、国家資格試験については今年度も全ての職種において全国平均を上回り、特に看護師国家試験は看護系大学で全国1位となる10年連続合格率100%を達成した。

研究の分野においては、引き続きトランスレーショナルリサーチ事業の推進に取り組み、ヒト癌ワクチン研究については8月に治験を開始、脳梗塞研究については平成25年3月に治験を開始した。

附属病院においては、平成25年3月にハイブリッド手術室を整備するとともに、手術支援ロボットを導入し、より先進的かつ安心安全な医療体制の充実を図った。

業務運営においては、引き続きプロパー職員の採用に努めたほか、業務外部委託化を推進し、業務の簡素化、効率化に取り組んだ。

社会貢献としては、引き続き地域医療機関への支援のため医師派遣を行うとともに、初期臨床研修システム等を充実させ、研修・専門医養成・生涯教育を通じ地域医療への貢献に取り組んだ。また、フィンランド、中国医科大学との交流協定を更新するなど積極的な国際交流を推進した。

さらに、北洋銀行からの全面支援によるラジオ番組「医の力～札幌医科大学最前線～」(エフエム北海道・AIR-G')を4月から平成25年3月末まで全52回放送し、広く本学の教育・研究・診療の最新情報を発信した。

第1期中期計画については、概ね計画どおりに取組を実施できたが、今後も第2期中期計画の達成に向けて、人的、物的ネットワークを活用し、理念に掲げる最高レベルの医科大学を目指し邁進していくものである。

(2) 計画の主な実績

第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

○学生サポートシステムの開発

学生サポートシステム運用ワーキンググループを設置、システム運用方針について検討するとともに、システムのテスト運用や学内説明会等を行い、学籍・成績・出席管理等の機能を備えた教職員及び学生のための学生サポートシステムを開発した。

○FD活動のためのセミナーやワークショップの開催

FD教育セミナー5回、新任教員研修1回、FDワークショップ1回を実施し、教員の参加者数の増加に努めた。

〈今年度実施したFD活動〉

- ・FD教育セミナー
 - 「eラーニングを用いた医学教育の実際」(4月)
 - 「What is an effective IPE?」(10月)
 - 「進化するシミュレーション教育」(12月)
 - 「講義教材、e-learning教材における著作権について」(1月)
 - 「専門職連携教育 IPE」(2月)
- ・新任教員研修(10月)
 - 基調講演「医療教育者として最低備えておくべき態度や心構え」他
- ・FDワークショップ(11月)
 - 「e-learningコンテンツ作成からWebアップロードの概要説明」

○ヒト癌ワクチン研究及び脳梗塞研究の治験開始

ヒト癌ワクチン研究及び脳梗塞研究をはじめとする7研究が、文部科学省補助事業である「橋渡し研究加速ネットワークプログラム」の支援シーズとして採択され、北海道臨床開発機構（HTR）の支援を受けながら研究を推進した。

ヒト癌ワクチン研究については8月に治験が開始され、脳梗塞研究については平成25年3月に治験が開始された。

○競争的資金の申請件数の増加

申請件数の増加に向け、教授会等において応募数増加に向けた要請や、公募要領等説明会の開催、科研費申請書作成レクチャーの開催等を実施した。これにより、計画目標（競争的資金の申請件数平成18年度比10%増加）を達成した。

※平成18年度文部科学省科研費申請件数：284件

平成24年度文部科学省科研費申請件数：322件

（平成18年度比13.4%増加）

○診療支援要請への対応

地域医療機関からの診療支援要請に応えるため、地域医療支援センターにおいて審議の上、次のとおり医師派遣を行った。

※要請件数：2,136件 派遣実績：1,972件 応諾率：92.3%

※公的医療機関への派遣割合：60.1%

○公開講座・講演などの積極的な開催、情報発信

北海道の医療・保健の向上や道民の命を守ることを目的に北海道新聞社との間で締結している連携協定「健やか北海道プロジェクト」による公開講座「すこやかライフ講座」を3回開催し、延べ600名を超える道民の参加があった。

〈開催状況〉

- ・7月3日 脳神経外科学講座 三國信啓教授
「てんかんは、どんな病気？」
- ・8月30日 麻酔科学講座 山蔭道明教授
「がんの痛み、我慢しないで！緩和医療最前線」
- ・11月13日 内科学第二講座 三浦哲嗣教授
「狭心症と心筋梗塞を知ろう～予防から最新治療まで～」

○協定大学との大学交流の促進

フィンランド（パウロ財団）及び中国医科大学との協定を更新した。

さらに、アルバータ大学への研究者派遣、フィンランドへの研究者派遣・受入、中国医科大学からの研究者受入、中国の佳木斯（ジャムス）大学への研究者派遣、韓国カトリック大学への臨床実習学生の派遣、中国医科大学からの臨床実習学生の受入等、積極的な国際交流を行った。

○附属病院における機能強化

平成25年3月にハイブリッド手術室を整備したほか、手術支援ロボットを導入し、より先進的かつ安心安全な医療体制の充実を図った。

第2 業務運営の改善に関する目標を達成するための措置

○プロパー職員の採用・育成

専門的経験を有する者等、11名のプロパー職員の採用により、道からの派遣職員の漸減を図った。また、年間3回の研修を実施したほか、公立大学協会主催の「公立大学職員セミナー」に3名の職員を参加させ、資質の向上を図った。

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

○財務内容の改善による運営費交付金の縮減

診療収入の増加や経費節減に取り組み、収入総額の増加及び運営費交付金の縮減を図った。これにより、計画目標（運営費交付金依存率の平成18年度比5ポイント縮減）を上回る成果を達成した。

※平成18年度運営費交付金依存率：26.2%

平成24年度運営費交付金依存率：17.7%

（平成18年度比8.5ポイント縮減）

第4 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置

○ラジオ番組による積極的な情報発信

前年度に引き続き北洋銀行からの全面支援を受け、ラジオ番組「医の力～札幌医科大学 最前線～」(エフエム北海道・AIR-G')を4月から平成25年3月末まで全52回放送し、疾病予防や健康づくり等を含め本学の教育・研究・診療の最新情報を広く発信した。本番組はAIR-G'の中でも平均聴取率を上回る高聴取率を獲得するなど、各方面から高評価を得て、平成25年度も引き続き放送を継続することが決定した。

第5 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置

○ESCO事業による省エネの実施

平成22年度から本格的に開始したESCO事業による省エネ率は、平成24年度において15%となり、目標値の11%を4ポイント上回る削減効果があった。

第6 決算、収支計画及び資金計画

別紙のとおり

第7 短期借入金の状況

※平成24年度の計画

①短期借入金の限度額

18億円

②想定される理由

運営費交付金の受入れ遅延及び事故発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れすること。

※平成24年度の実績

該当なし

第8 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

※平成24年度の計画

該当なし

※平成24年度の実績

該当なし

第9 剰余金の使途

※平成24年度の計画

全学的視点に立ち、教育・研究・診療の質の向上及び組織運営の改善に充てる。

※平成24年度の実績

知事の承認を受けた目的積立金のうち763百万円を教育・研究・診療及び組織運営の質の向上等に充てた。

第10 その他

1 施設及び設備に関する計画

※平成24年度の計画 (単位：百万円)

施設・設備の内容	予定額	財源
施設整備事業費	567	施設整備費補助金
医療機器整備費	520	長期借入金

※平成24年度の実績 (単位：百万円)

施設・設備の内容	実績額	財源
施設整備事業費	519	施設整備費補助金
医療機器整備費	520	長期借入金

2 人事に関する計画

※平成24年度の計画

多様なプロパー職員の採用・育成を進め、派遣職員の漸減を図る。

※平成24年度の実績

多様なプロパー職員の採用・育成を進めるため、次のとおり取り組んだ。

- ・ 11名のプロパー職員の採用により、道からの派遣職員の漸減を図った。
- ・ 平成24年度は次の専門研修を実施したほか、公立大学協会主催の「公立大学職員セミナー」に3名の職員を参加させ、職員の育成を図った。

※研修実施状況

- ・ 階層別研修：新規採用職員研修（4月）
- ・ 能力開発研修：文書作成能力向上研修（6月）、
ロジカルシンキング研修（10月）
- ・ 派遣研修：公立大学職員セミナー（公立大学協会）への参加（7月）

3 積立金の使途

※平成24年度の計画

該当なし

※平成24年度の実績

該当なし

区 分	予算額	決算額	差額(決算-予算)	備 考
収入				
運営費交付金	6,458	6,482	24	
施設整備費補助金	567	519	△ 48	
自己収入	22,997	23,953	956	
授業料及び入学金検定料収入	887	839	△ 48	
附属病院収入	21,200	21,903	703	
雑収入	910	1,211	301	
受託研究等収入及び寄附金収入等	978	1,904	926	
長期借入金収入	520	520	0	
目的積立金取崩	821	763	△ 58	
計	32,341	34,141	1,800	
支出				
業務費	29,979	29,894	△ 85	
教育研究経費	2,190	2,493	303	
診療経費	11,594	12,407	813	
人件費	15,429	14,476	△ 953	
一般管理費	766	518	△ 248	
施設整備費	1,087	1,039	△ 48	
受託研究等経費及び寄附金事業費等	741	662	△ 79	
長期借入金償還金	534	534	0	
計	32,341	32,129	△ 212	
収入-支出	0	2,012	2,012	

平成24年度 収支計画

北海道公立大学法人札幌医科大学

(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差額(決算-予算)	備 考
経常費用	30,748	29,926	△ 822	
業務費	28,679	27,668	△ 1,011	
教育研究経費	1,738	1,828	90	
診療経費	11,206	11,112	△ 94	
受託研究費等	306	251	△ 55	
役員人件費	93	88	△ 5	
教員人件費	4,381	4,075	△ 306	
職員人件費	10,955	10,314	△ 641	
一般管理経費	524	455	△ 69	
財務費用	14	14	0	
減価償却費	1,531	1,789	258	
経常収益	30,652	30,846	194	
運営費交付金収益	6,426	6,031	△ 395	
施設費収益	0	40	40	
授業料収益	782	740	△ 42	
入学金収益	90	82	△ 8	
検定料収益	16	16	0	
附属病院収益	21,200	21,903	703	
受託研究等収益	370	304	△ 66	
寄附金収益	587	584	△ 3	
雑益	877	780	△ 97	
資産見返運営費交付金等戻入	59	64	5	
資産見返寄附金戻入	49	64	15	
資産見返補助金等戻入	83	123	40	
資産見返物品受贈額戻入	113	115	2	
経常損益	△ 96	920	1,016	
臨時損失	0	2	2	
臨時利益	0	620	620	
純損益	△ 96	1,538	1,634	
目的積立金取崩額	96	159	63	
総利益	0	1,697	1,697	

(注) 金額の端数処理は百万未満を四捨五入しておりますので、合計金額と一致しないことがあります。

平成24年度 資金計画

北海道公立大学法人札幌医科大学

(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差額(決算-予算)	備 考
資金支出	32,341	37,732	5,391	
業務活動による支出	29,854	29,607	△ 247	
投資活動による支出	1,953	3,261	1,308	
財務活動による支出	534	1,245	711	
翌年度への繰越金	0	3,619	3,619	
資金収入	32,341	37,732	5,391	
業務活動による収入	31,254	30,973	△ 281	
運営費交付金による収入	6,458	6,333	△ 125	
授業料及び入学金検定料による収入	887	783	△ 104	
附属病院収入	21,200	21,856	656	
受託収入	337	318	△ 19	
寄附金収入	641	634	△ 7	
その他収入	1,731	1,006	△ 725	
預り科学研究費補助金等増減	0	43	43	
投資活動による収入	567	2,465	1,898	
施設費による収入	567	467	△ 100	
その他収入	0	1,998	1,998	
財務活動による収入	520	520	0	
前年度よりの繰越金	0	3,774	3,774	

(注) 金額の端数処理は百万未満を四捨五入しておりますので、合計金額と一致しないことがあります。